

那須塩原は環境政策に力を入れてきているので、仮に「環境」を軸にまちづくりを進める上では、「自然景観」をうまく活用していくことも十分選択肢に入るでしょう。

また、「庁舎の移転」がもたらす好影響は大きいと思います。どのようなコンセプトでどのような機能を持たせるかについても、まちのしつらえと合わせて検討する必要があるという議論もありました。新庁舎建設を契機に、民有地を含めた土地利用の一体的な検討が進むことを期待しています。

■具体的にどういう土地利用方法があるか、考えはありますか。

駅前での再開発をするとなつたときに、「どういふものが必要か」を地域の皆さん含めて話し合う機会を持つ場合があります。意見を集約してみると、「大型の商業施設が欲しい」といった話になることが多いんですが、まちに必要な機能は社会情勢やマーケット、地域特性などを考慮して考える必要があるのでですね。

あまり知られていませんが、アメリカの一部の地域では大型ショッピングモールが相次いで閉鎖しています。この流れは先進国を中心に世界的なものになりつつあります。そうした背景には「ネットショッピングの台頭」や「物からサービスへの消費嗜好の変化」

など複雑な要因が関係し、まちづくりに当たってはこうした流れも踏まえる必要があるのではないかと思います。人々の価値観の転換期を迎えた結果なのでしょう。

■確かに時代とともに価値観も変わりますよね。単に物を買っただけならネットショッピングの方が安く便利な場面が多いです。

そうですね。戦後私たちは「もの」の豊かさを追い求め、資源を大量に消費して安いものを大量に生産する「量的成長」によって発展してきました。

しかし、現在の日本のように成熟期にある経済では、「物」よりも「人」、「経済主体のまち」よりも「人の暮らしや生活・文化が見えるまち」が求められていくんだろうと思います。家庭、職場以外に、まち自体がどこか居心地の良い「居場所」となるイメージです。

情報化社会を迎え、一人の人が行う取り組みがSNSなどで拡散され、社会的に影響を与えるようになりました。私のまちづくりの考え方に「一人の人で、一つの物で、一軒の店で、街は変わる」という言葉があります。文字どおり、魅力がなくなっていくまちでも、まちであったとしても、一つのきっかけで人が集まり、人がつながることでまちを変えることができると思うんですね。

むしろ、これからの時代は大型商業施設というよりは、小さいところからまちを変えていくことが大都市で取り組める現実的な回答であると考えます。まさに、中心市街地は「消費の舞台」というかつての役割を終えて、人々を引き寄せる新しい目的を持った「求心力がある場」の出現を模索している時期にあるだろうと…。

■会議では、官民連携の重要性、特に民間事業の促進についても話題となっていたようですね。

まちづくりでは、地域のまとまりが一番重要になると思います。この話は「温泉街のまちづくり」と「個々の旅館の経営方針」に例えることができます。今、観光業界では、収益性を上げるために宿で受けられるサービスを充実させて単価を上げ、館内に顧客を囲い込む経営方針をとる施設が増えていきます。館内でお土産を買うこともでき、一歩も外に出る必要性のない施設はそれなりに多いのではないのでしょうか。

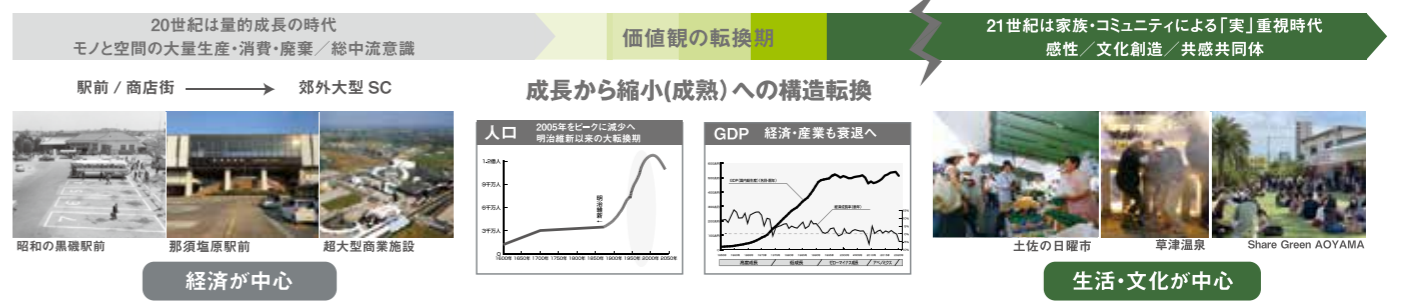
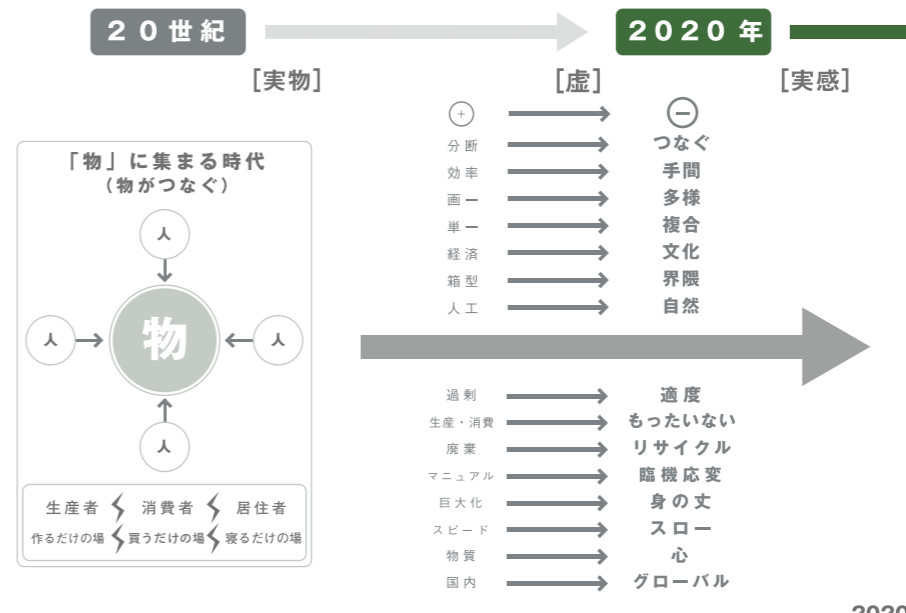
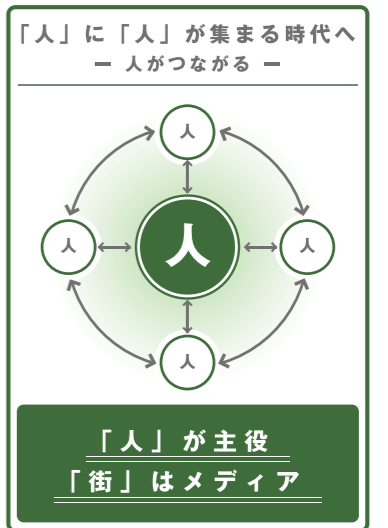
局的に見れば一施設の収益性を高めることにつながるとは思いますが、広い視点で考えると周りの飲食店やお土産屋などの収益悪化につながる一面も



街路照明整備により変わった草津温泉湯畑付近



一人の人で、一つの物で、一軒の店で、街は変わる。



あります。ですので、こうした流れが過度に進んだ場合、周辺の店舗が空洞化し、結果として温泉街全体の魅力度低下につながる可能性があるという面も考慮する必要があります。

観光者の視点で考えれば、「せつかくの旅行で温泉街に泊まるなら、景色がきれいで風情や活気がある温泉街を歩いて楽しみたい」と思う人も多いと思います。少なくとも私はそうです。宿に着いたら温泉に入って、浴衣に着替えて宿を出て周囲を散策、ふらっと入った居酒屋でお酒を飲んで…。旅行の醍醐味はその土地の生活や文化に触れることであって、旅先での人との出会いもそうした接点の一つなんです。元気なまちは、人と人をつなげるメディアの役割を果たします。

■北山代表は草津温泉の開発にも携わっていらっしゃいましたね。

草津温泉に関しても、まちの中心地に位置していた駐車場を人が集まる居場所として開発することで、観光誘客を増やすことに加えて、地域の一体感を生みきっかけにもなりました。今では行政と民間事業者の皆さんがチームとなって温泉街全体の景観などを整

え、まちの魅力度をあげる取り組みをしています。那須塩原駅周辺の土地を有効に活用して街並みを整えていく上では、地域の一体感というのは間違いなく重要な資源になると思います。地域が面的にまとまらないと、一貫性のある開発や街並みを形成することはできません。

■今後の駅周辺まちづくりに関して思っていることは…。

我々がランドデザイン会議メンバーは、知見を生かした方向性を構想することはできても、結局、外の人なんです。大切なのは地域の皆さん、特に駅周辺にお住まいの皆さんが「どういうエリアにしていきたいか」ということに対してどれだけ熱量を持っているか、これに尽きると思います。

まちの重要な構成要素の一つである新庁舎についても検討が始まっていますが、新庁舎の公共空間も一つの居場所に位置付けられるでしょう。まちの中に佇む市役所。その中の市民広場がどういふ場所になるか、一人でも多くの方々に関心を持っていただくことが非常に重要なことだと思います。